

# 氏田植に総裁新銀日

## 経済学者、元審議委員

### 副総裁は内田元新潟支店長

岸田文雄首相が4月8日に任期満了となる日銀の黒田東彦総裁(78)の後任に元日銀審議委員で経済学者の植田和男氏(71)を起用する意向を固めた。関係者が10日、明らかにした。副総裁は前金融庁長官の水見野良三氏(62)と日銀理事の内田真一氏(60)の2人を候補とする。14日に国会に人事案を提示し、衆参両院の同意を得て総裁は4月9日、副総裁は3月20日に就任する。任期はいずれも5年。

する「出口」を探ることが植田氏の課題となる。日銀と財務省(旧大蔵省)出身者以外が総裁に就くのは、1969年まで務めた第21代の宇佐美洵氏(旧三菱銀行出身)以来となる。

急激な円安と歴史的な物価高などの弊害が目立つ大規模な金融緩和策から脱却

植田氏は東大卒で、1998〜2005年に日銀審議委員を務めた。現副総裁は日銀出身の雨宮正佳氏(67)と早大教授から転じた若田部昌澄氏(57)。2人とも3月19日に任期を終える。



内田真一氏

内田 真一氏(うちだ しんいち)東大卒。1986年日銀。新潟支店長、企画局長、名古屋支店長などを経て18年4月から理事。60歳。東京都出身。

岸田首相は2月8日の衆院予算委員会で、次期総裁に求める資質として「主要国中央銀行トップとの緊密な連携、内外の市場関係者に対する質の高い発信力と受信力」を挙げていた。

植田 和男氏(うへだ かずお)東大卒、米マサチューセッツ工科大博士課程修了。東大教授、日銀審議委員などを経て2017年4月から共立女子大教授。71歳。静岡県出身。

2016年5月、G7財務相・中央銀行総裁会議の開幕に先立ち開かれたシンポジウムに臨む植田和男氏(右)。左は日銀の黒田総裁=仙台市

